

令和3年度子ども・子育て支援推進調査研究事業

<調査研究報告書タイトル>

児童相談所における児童福祉司等の勤務実態等についての調査

<実施主体名>

PwC コンサルティング合同会社

【目的】

本調査事業は、児童福祉司や一時保護所職員の勤務実態を明らかにし、児童福祉司一人当たりの対応ケース数や一時保護所の設置運営基準等を検討する際の基礎資料を作成することを目的として実施した。

【概要】

児童相談所や一時保護所へのアンケート調査、児童相談所に勤務する児童福祉司へのタイムスタディ調査、児童相談所および一時保護所職員へのヒアリング調査を通じて、児童福祉司等の日々の業務負荷について明らかにした。

○児童相談所向けアンケート調査

対象：全国の児童相談所 225 か所（悉皆）

主な調査項目：概要、民間機関等への業務委託の状況、職員研修の状況 等

○児童相談所に勤務する児童福祉司等向けタイムスタディ調査

対象：全国 17 か所の児童相談所に勤務する児童福祉司 2 名およびスーパーバイザー 1 名（抽出）

主な調査項目：調査対象者の属性、連続する 7 日間の業務種類別従事時間 等

○一時保護所向けアンケート調査

対象：全国の一時保護所 145 か所（悉皆）

主な調査項目：概要、外部人材等の活用有無、人材の充足感、業務の負担感、職員研修の状況 等

○ヒアリング調査（児童相談所・一時保護所）

対象：全国の児童相談所および一時保護所等計 9 か所の職員（抽出）

主な調査項目：概要、調査対象者の属性、業務負荷が重い業務、業務負荷軽減のための取組 等

【結果】

児童相談所の児童福祉司（介入・支援担当）やスーパーバイザーの業務負荷について、多くの時間を費やしている業務と負担感（精神的に疲労感を感じるもの）が大きい業務それぞれについて実態を把握した。「裁判所に提出する文書の作成」や「法律に基づく安全確認（出頭要求・立入調査等）」「安全確認（48時間ルール対応）等の初期調査」等多くの時間を費やしている業務に精神的負担を感じているケースもあれば、必ずしも多くの時間を費やしてはいないが精神的負担を感じているケースがあることが分かった。また、一時保護所の職員においては、受け入れ状況およびそれに対する職員体制、人材の充足感、職員の負担感について実態を把握した。また、児童相談所および一時保護所職員の業務負荷軽減のための取組については、本事業のヒアリング調査で実際に行われている事例を収集することができた。